

報告

北海道スタンダード研究会 ～設立経緯と活動紹介～

天 沼 宇 雄

1. 設立経緯

今年の2月、青年技術士協議会(現在の青年技術士交流委員会)で活動していた「危機管理研究会」のコアメンバーが集まりました。

この「危機管理研究会」は、近年の度重なる企業の不祥事発生メカニズムや、それに対する組織のリスクマネジメント、危機発生後の危機対応のまずさから事業継続が困難になるほどのダメージを受けたケースなどを取り上げながら“組織の危機管理”を全般的に勉強しようと、平成15年から平成19年まで活動していた自主研究グループです。

平成18年10月に成果報告書「組織の危機管理を考える」をまとめ、発行したことをひとつの区切りとして平成19年4月から活動を休止しています。

その休止から3年が経過した昨年頃から、かつてのメンバーから“また、何か新しい取り組みをやりたい”という声が増えてきて、先の2月の集まりとなったわけです。

折しも、様々な勉強会の場で、“北海道”をテーマにすることが増えてきていました。多くの日本人が様々な意味で閉塞感を感じている昨今、北海道も例外ではなく、“どうして北海道には企業が育たないのか”、“どうして北海道はもっと中央に発信できないのか”、“北海道はオリジナリティがない”、“北海道が果たすべき役割とは…”等々、北海道をもっと良くしたい、何故良くならないのかというストレスが、メンバー達の声になり、“北海道を活性化する”、“北海道を元気にする”ことに取り組まないか、“北海道を元気にする会”を作ろうじゃないかと盛り上がったことが、この「北海道スタンダード研究会」を立ち上げる起爆剤になりました。

実は、立ち上げようとした矢先に、3.11 東日本

大震災がありました。「我々は今、もっと優先して取り組むべきことがあるのでは」という気持ちから、研究会の発足に対して躊躇した時期がありました。それでも“北海道を元気にすること”、それは北海道から東北、そして日本を元気にしていくことだという当会の理念をもう一度思い起こし、設立に向かうことになりました。

“一体、どうやって北海道を良くしていくのか”、“何をやったら北海道が良くなるのか”、“一体何がダメなのか、良いのか”、“そもそも北海道とはどういう土地なのか”、改めて考えねばならないことは山積しています。

しかしながら、“歩きながら考えていこうじゃないか”、そして、既成の枠にとらわれず、自由な発想で北海道を眺め、“北海道のあるべき姿”をしっかりと捉え、“北海道人”が“北海道らしさ”、“北海道の良さ”を認め、“我々が北海道のために何が出来るか”、そして“北海道の発展につながること”、“北海道が果たすべきこと”を少しずつ理解し、実際に進めていくという活動にしていきたいと思っています。

まだまだ、ヨチヨチ歩きの研究会ですが、目の前の課題を少しずつクリアして、実績を積み重ねていきたいと思っておりますので、皆様からのご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

2. 活動目的

○北海道特有の気候、風土、文化、歴史、慣習などを踏まえ、北海道らしい“食”、“観光”などの産業から教育、福祉に至るまで幅広い分野で、既存の法律や規制にとらわれない北海道を元気にする“北海道スタンダード”、“北海道ルール”を提案、発信すること、同時にこの研究会の活動を通じて

北海道の明日を担う人材を育成していくことを目的としています。

3. 研究会の運営方針

○「北海道スタンダード」、「北海道ルール」などの言葉が使われるようになって久しいですが、なかなか北海道らしい、北海道独自の発展につながるような提案が、北海道から発信されていないと感じています。この研究会は、北海道に住む人(ここでは北海道人と呼ぶ)が、“北海道らしさ”や、北海道人の考え方や気質を分析し、“北海道のあるべき姿”や“北海道の発展・自立”など、幅広いテーマで活発に議論を交わしながら、“北海道が元気になる提案やルール”を見つけて発信していくことを目指します。

4. 研究会の進め方

1) テーマの抽出

- 1) “北海道らしさ”について
- 2) 北海道人の持つ北海道観について
- 3) 北海道らしい提案を妨げる事例や規制について

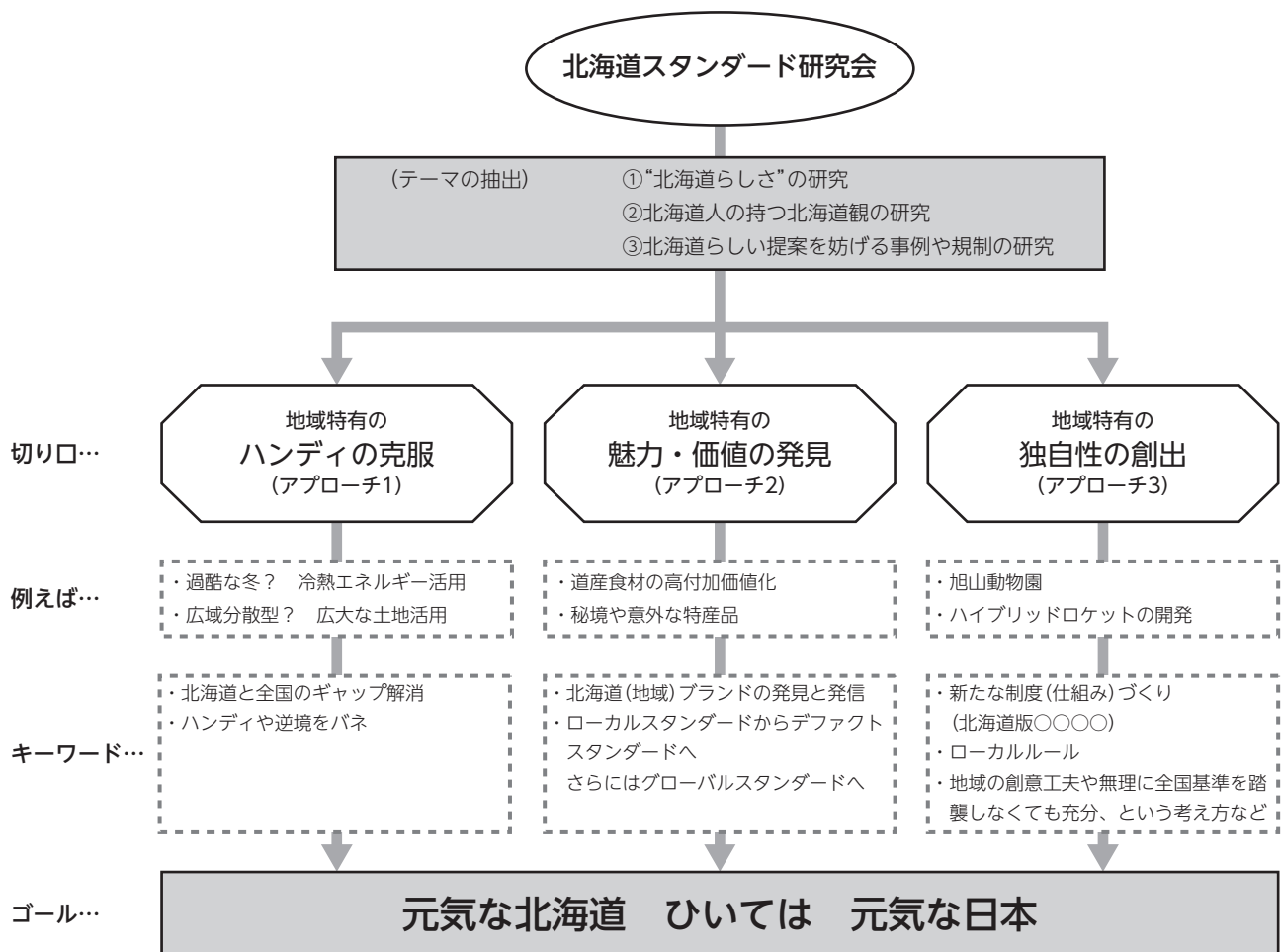
2) 具体的事例の抽出、分析

北海道スタンダード、北海道ルールになりうる様々な事例についてそれを抽出し、分析します。

3) 提言案の作成

当研究会では、北海道を元気にする独自の提案、提言を北海道スタンダード、北海道ルールとして報告書にまとめて発信することとしています。

【研究会の検討フレーム】



①“北海道らしい”考え方、既成概念などを抽出、分析し、それに基づき、あるいはそこから脱却する方法を様々な経済産業や技術分野の人間が知恵を持ち寄って研究することで独自の提案を行います。

②発想の転換によって、北海道が“北海道らしく”発展するために必要な提案をひとつでも多く拾い上げて、独創的な考え方に基づく北海道スタンダード、北海道ルールを幅広くとりまとめていきます。

4) 参加方法

★当研究会に是非ご参加ください。

申し込みは幹事長の大槻(以下のメールアドレス)までお願いします。

○申込みメールアドレス：

otsuki@snow-eaters.com (大槻幹事長)

○申込み記載事項：以下の項目をご記入ください。

- ①氏名
- ②所属名(会社名・部署名)
- ③メールアドレス④携帯番号
- ⑤技術士登録部門
- ⑥生年月日

○現会員数 47名

5. 活動の紹介

○第1回勉強会の開催

日時：平成23年6月27日(月) 18:00～

場所：KKR ホテル札幌

参加者数：52名(意見交換会を含む)

勉強会の開催(司会進行：幹事長大槻)

〈勉強会の概要〉

第1回勉強会は、「北海道の逆襲(彩流社)」の著者である井上美香様を講師にお招きし、ご講演をいただきました。



第1回勉強会風景

〈ご講演〉

(演題)

「“北海道の逆襲” ～北の大地から立ち上がれ！」



講師：井上美香 様

〈講演の概要〉

「わたしが北海道について知っている二、三の事柄」

1) 北海道周辺って、世界地図に最後に書き込まれた場所だってホント！？

・中野美代子氏から教えられたこと etc.

2) 日本が“発見”した北海道とは

・後手後手だった蝦夷の発見 etc.

3) 幕末から続く依存体質

— 「北辺」は金がかかるという常識

4) 北海道のイメージに一言

・イメージに縛られているのは北海道人だ etc.

5) アイデアと情報はその辺に転がっている

- 6) 北海道の希望の星・三人衆は皆オタクだった
- ・夕張希望の杜：村上智彦医師
 - ・植松電機：植松努氏
 - ・旭山動物園：坂東元園長
- 7) 北海道の自然をビジネスチャンスに
雪—エネルギー、森林—山と水を護る etc.
- 8) 北海道は物語の宝庫だ
- 9) 恥ずかしがり屋気質を打破しよう etc.

北海道の歴史的な特徴や、北海道人の特徴的な気質や考え方、北海道を元気にするために頑張っている方々とその功績などを多数ご紹介いただきました。

今後の活動を進めるにあたり、こういった事例や考え方を学ぶことの重要性和、北海道の特色や多くの課題を再発見する契機となりました。

〈質疑応答〉

Q：北海道は要らないのではないのか、北海道が無くても日本は困らないのではないのか。

A：確かに北海道が、わが国に必要とされるようになることは重要です。北海道にはわが国にとってどんな存在意義があり、どのような貢献ができていくのかについても考えていかないとならないと思います。

当会の設立は大変注目されている、多くの提案が集まることを期待している。

自分たちが、何をやれるのか、どんなやり方ができるのか、全くの未知数ではあり、これから一つ一つ組み立てていきたいと考えています。

会の運営について、戦略が足りない、何を目的としているのか漠然としすぎている、対外的に発信するとは、どこにどのように発信していくつもりか。

当会は、北海道を元気にするような提案、アイデアを結集したいということ、そしてそれを対外的、すなわち道内外にも発信していきたいと考えており、そのツールとして、当会の活動内容を提言書にまとめ、活用していきたいと考えています。

等々、これ以外にも多くのご質問・ご意見を頂戴しましたが、今後とも、皆様のご指導を賜りながら、一歩ずつ前進していきたいと考えております。

6. 事務局

代 表	天沼 宇雄
副 代 表	正岡 久明
副 代 表	丹治 和博
幹 事 長	大槻 政哉
副幹事長	樋詰 透

7. おわりに

本研究会は、我々技術士がこれまであまり関わったことのない分野を含めてあらゆる分野を対象に、多方面の専門家なども交えて議論や意見交換を進めていきたいと考えております。

また、支部研究会の「リージョナルステート研究会」とも重なるテーマがあると思いますので、今後、情報交換を進めていきたいと思っております。「リージョナルステート研究会」の皆さん、よろしくご指導をお願いいたします。

なお、会員、会友の皆様の中で、こういう話題に“興味がある”、あるいは“新たなヒューマンネットワークを構築したい”という方は是非ご参加ください。勉強会の後には、活発な意見交換会も開催しております。

天沼 宇雄 (あまぬま たかお)

技術士(建設/総合技術監理部門)

北海道スタンダード研究会代表
北海道総合政策部計画推進局

